

第4章 ヘリテージとツーリズム

第1節 ヘリテージ・ツーリズム

自治体は、そのビジョンの中で、何らかの目的を達成するためにヘリテージを保存してきた。魅力ある街の創造、住民の誇りの形成、住環境の整備など目的は地域によって違いがあるが、「ヘリテージはビジネスである」と言いきるハウツー本もあるほど、ヘリテージを集客産業（ツーリズム）に結び付けた戦略が多い。ヘリテージ保存というよりは地域資産の運用という意味合いが強い。ヘリテージ・ツーリズムという言葉も生まれた。連邦政府、州、自治体のそれぞれが、この手法を意識している。

第4章では、ヘリテージをツーリズムの重要なカードとして用い、地域の活性化に役立てる施策と事例を紹介する。

1 連邦政府のツーリズム・ガイドライン

連邦政府環境及びヘリテージ省（Department of Environment and Heritage）の中にある豪州ヘリテージ委員会（Australian Heritage Commission）は、1975年の豪州ヘリテージ委員会法（Australian Heritage Commission Act 1975）により設立された。国家遺産リスト（Register of the National Estate）を管理している。1977年のフレーザー島（QLD州）を始めとして現在11,000を超える箇所が国家遺産に登録されている。

連邦政府は2001年、「国家遺産」とツーリズムを結び付ける戦略「成功するツーリズム・ガイドライン」を打ち出した。ヘリテージの所有者（管理者）、ツーリズム業界、地域住民、政府のそれぞれが「継続的」利益を被るための連携を呼びかけ、成功するヘリテージ・ツーリズムの5原則を掲げた。

ヘリテージの価値の認識

価値を認識することにより、何を保護するのか、何を売り出すのかを知ることができる。

ヘリテージの保護

商業的活用が、ヘリテージにダメージを与えないように配慮すること。

相互に利益を得るためのパートナーシップの形成

ツーリズム業界、ヘリテージ管理者、地域社会の連携が成功の秘訣。

ビジネスプランの策定

商業的活用及びヘリテージの保存における、それぞれの目的と責任を明確にした計画を策定し、常に見直しを行うこと。

地域社会とヘリテージへの投資

ヘリテージの商業的利用は、地域社会とヘリテージ（の保存）に利益をもたらすものであること。

市場調査と販売促進

ヘリテージの価値と地域の望むことに敬意を払い、誤ったイメージを創出しないよう広報宣伝にあたること。

国家レベルで、ヘリテージを活用したツーリズムを推奨しており、ヘリテージ保護のための助成事業をいくつか実施している。

2 NSW州政府のツーリズム振興

2000年4月、NSW州副首相兼都市計画大臣は、「ヘリテージは地方振興に多いに役立つ」と講演した。ヘリテージ関連事業が雇用を産み、ツーリズムを盛んにし、新しいビジネスを呼びこむというのである。

例えば地方部の場合、地方部にありがちな人口減少に悩まされていた町が、数年かけて地域の自然と文化的ヘリテージの保護と活用に取り組んだ結果、観光客が増え、地域経済が活性化したという例もある。州政府のヘリテージ助成金の60%は、自治体の地方部活性化事業（ヘリテージ保存やメインストリートの整備など）に費やされている。今やヘリテージ・ツーリズムは珍しくない手法であり、ここから主に収益をあげている町は少なくない。

都市部の場合では、ショッピングという集客方法も重要である。何度か取り壊しの危機を免れショッピングセンターに改装されたクイーン・ビクトリア・ビルディング（QVB 既述）は、現在シドニー市内で観光客に一番人気のスポットである。建物をリースし、民間の運営は大変うまく行っており、地域に経済的効果をもたらしている。店舗の占有状況は99%。利益は州平均11.95%よりも高く15.4%を挙げ、資産価値が州内平均の3倍以上に上昇したと評価されている。

ヘリテージ・ツーリズムの成功には、官と民、ナショナル・トラストのような団体とのパートナーシップが不可欠であるとする点は連邦政府と同様である。

第2節 ヘリテージをツーリズムに活かした事例

事例1：町並み保存と観光ーロックス地区（NSW州政府）

（1）開発の危機を救った住民運動

ロックス地区は、1788年にフィリップ船長率いる最初の移民団が開拓を始めた地であり、豪州入植の始発点であった。入植以来の砂岩でできた小さな家や、貿易港として発展してきた歴史を象徴する倉庫群、船員のための施設、貿易商の事務所などが並ぶ、密集した地域であった。1900年の疫病、1920年代のハーバブリッジの建設といった破壊に見舞われてきたが、1971年最大の危機が訪れた。NSW州の「ロックス再開発計画」は、ゴミゴミしたロックスを高層ビル群のビジネス地区へ転換させるものだった。ロックスの住民だけでなく、シヨナル・トラストなどの専門家、ロックスに歴史的意義を見出す市民たちは、この計画に激しく抵抗した。市民のデモが警官隊ともみあう事件も起こり、逮

捕者が続出した。この「ロックスの戦い」は豪州のヘリテージ保存の歴史に新しい局面を与えたとして評価されている。この抵抗運動が功を奏し、ロックスは、州政府の管理のもと保存をしつつ資産の運用が検討された。

ロックス地区は、いくつかの機関の運用を経た後、現在はシドニー湾岸協会（Sydney Harbour Foreshore Authority）により運営されている。当協会は、1998年にNSW州政府の外郭団体として設立され、ロックス地区に限らず、シドニーの8つの湾を管理する。

当団体は、シドニー湾岸の自然文化ヘリテージの保護と利用 商業的利用促進と経済的開発 文化、教育、ツーリズム、レクリエーション、交通、余暇活動の施設の運営など3つの方針を掲げ、域内の資産運営、景観保護、開発計画、商業振興、市場調査、顧客サービス提供のすべてを担っている。

表 11 シドニー湾岸協会 機構図

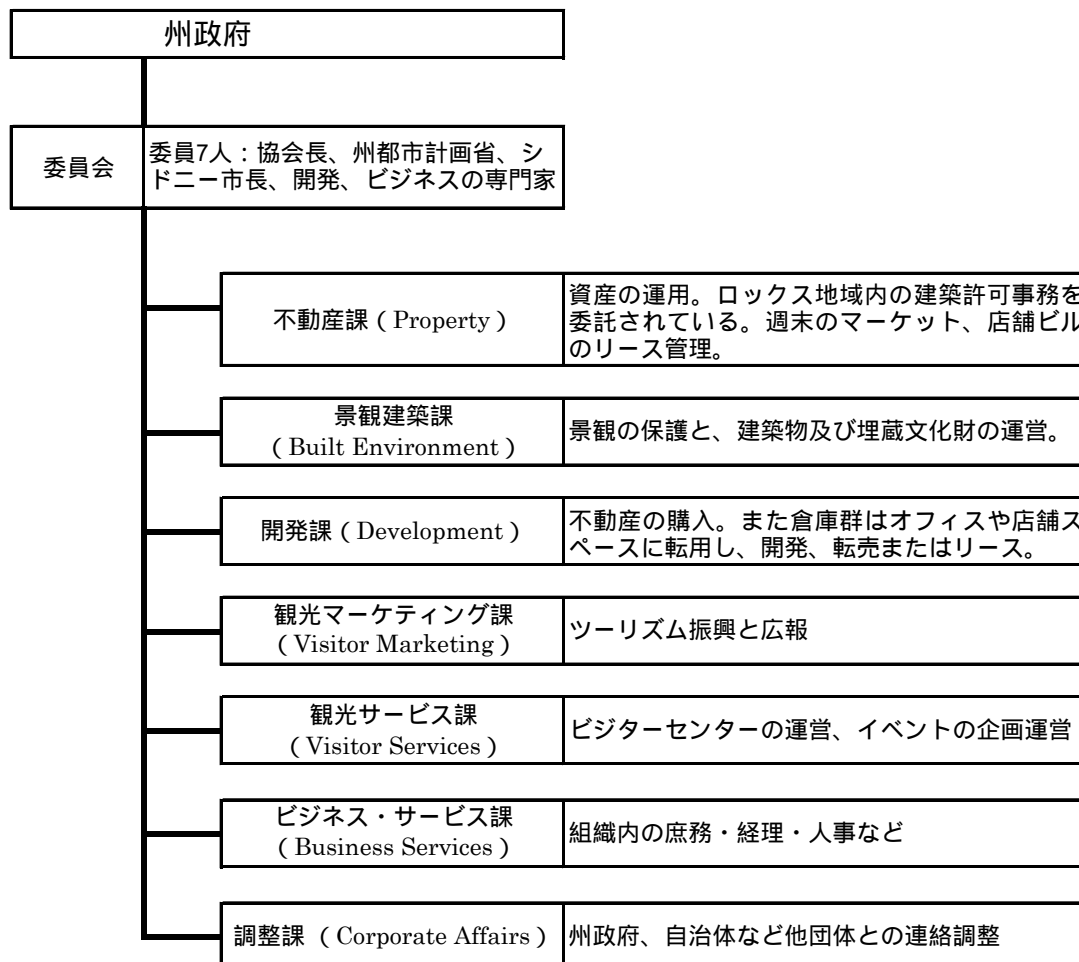
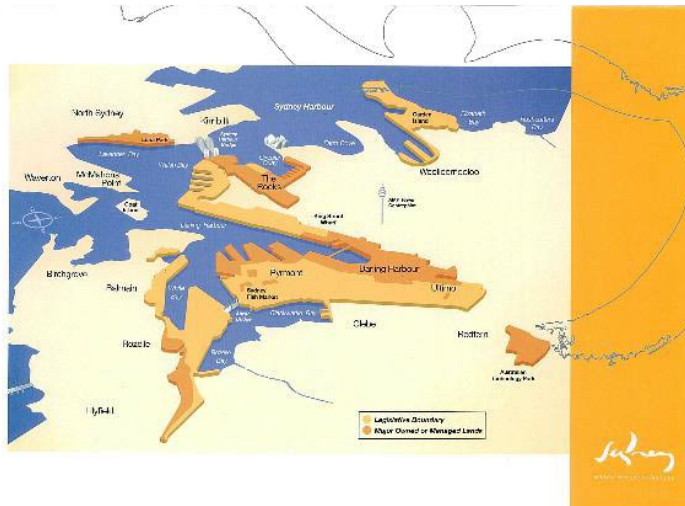


写真65 ロックスの町並み



図9 協会の管理地域



(2) ロックスの運営

シドニー湾岸協会は政府系機関であるが、その商業的活動によって、州に年間 9 億ドルもの直接間接的利益をもたらしたと評価されている。その要因として次の項目を挙げる事ができる。

資産運用面の成功

1999 年には協会全体で、不動産の販売と長期リース契約（8270 万ドルの 99 年リース契約など）により 1 億ドル以上もの利益を得た。当協会の資産は 6 億ドル以上になる。ロックス地区の場合、古い倉庫群をレストランに改装して、お洒落なインテリア雑貨、土産物屋、カフェやパブのコンプレックスに転用し土地及び建物の資産価値を高め、リースのみならず不動産を販売している。ロックスの他にも、シドニー市の西部の古い倉庫群や発電所を購入し、これらを転用する大規模再開発計画を策定中である。

景観の保全と看板規制

ロックス商工会（Rocks Chamber of Commerce）と連携して、ヘリテージを保存、景観の保護を図っている。道路標識の整備や景観に似合ったライトの設置、商業的看板広告のデザイン規制などの配慮によって保たれた町並みにより、豪州のはじまりの地としてのアイデンティティを確認できる。ロックスは、豪州の歴史、建築、文化を学ぶ地である。（1999年～2000年にロックスを訪れた客の56%が豪州国内客である）

写真66 レストランに改装された倉庫群(ロックス)



写真67 景観に配慮した看板(ロックス)



写真68 ライトもデザインにこだわる



サービスの質の確保

カフェとレストラン、雑貨販売部門において、商品価値の高いサービスを提供している。ハンドメイドや作家ものをそろえ、ユニークかつお洒落なイメージを定着させた。店舗側（ロックス商工会）と連携して、「ロックス品質保証（Rocks Guarantee）」と称したクレーム制度を設置して、ロックスで提供する商品、サービスの質を維持するよう努力している。また顧客サービス講習会を主催している。

リピーターを飽きさせないイベントの数々と念入りな広報活動

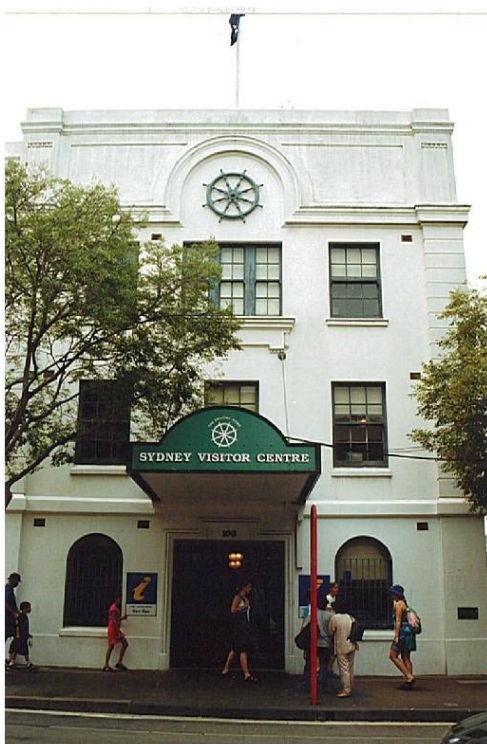
毎週末開かれるマーケットはシドニーの観光の目玉となっている。年間を通じて、聖パトリック祭、コーヒー・フェスティバルなどのイベントを催して、ロックスは「いつも何かがある」という期待を持たせてくれる。

広報誌「experience（体験）」は写真を多用し、ロックスの歴史や店舗、新商品の紹介、ライフスタイルの提案、イベントの広報のために無料で配布されている。観光情報センターは、昔は船員達の宿泊所であった建物を1992年から2年かけて改装しオープンしたものの。2階はロックスの歴史を解説する展示スペースである。

犯罪防止、安全の確保。

20人の協会レンジャーがロックス地区をパトロールしている。

**写真69 船員の宿泊所を転用して
ビジターセンターに**



**写真70 2階はロックスの歴史を展示
（ロックス地区）**



写真71 観光客でにぎわうロックス・マーケット



事例2：ヘリテージと地場産業－オンカパリング市(SA州)のワイン・ツーリズム

SA州は豪州産ワインの約70%を占めるワイン王国である。州都アデレードの南にあるオンカパリング市は、マクラレン・ベールというワイン生産地を抱えている。ワイナリーとヘリテージの組み合わせは、豪州では珍しくなく、NSW州のハンター・バレー、SA州のパロッサ・バレーにおいても見られる手法である。

マクラレン・ベールのハーディー・ズ・ティンタラ(Hardy's Tintara)社は、19世紀中ごろ創業のワインメーカーである。敷地全体がオンカパリング市のヘリテージとして指定されている。1854年に建造された製粉所をワイン製造工場として使っている。ここでは現在、ヘリテージの壁の表面を覆う近代の塗装ペンキを剥ぎ、昔の石積み壁の家に戻す作業に取り組んでいる。オンカパリング市のヘリテージ・アドバイザーは、「歴史を感じさせるテイストは、ワイナリーに好印象を与える」と語っている。本来の姿に戻してブルー・ストーン(アデレード付近で多く産出する)の外観にそろえたため、敷地内に美しい調和が生まれている。

オンカパリング市は、ワイナリー地区に観光客を呼び、滞在させ、お金が落ちる仕組みをつくろうと試みている。その一つの方法が「歴史」-ロマンティックなテイストである。ぶどう畑を有するワイナリーは郊外にあるため、ワインとおいしい料理、美しい丘の風景を楽しんで、のんびりと週末を過ごすための宿は重要なポイントである。古い建物を宿にしたB&B(Bed & Breakfast: 宿泊と朝食付きの簡易宿泊所)は人気がある。オンカパリング市を訪れるツーリスト数の増加率は、SA州内の他のエリアに比べてもかなり高く、ツーリズム振興策が成功している。「間違いなくヘリテージはツーリズムに貢献してい

る」と市のツーリズム担当者は語っている。

写真72 調和のとれたワイナリー。(オンカパリング市)

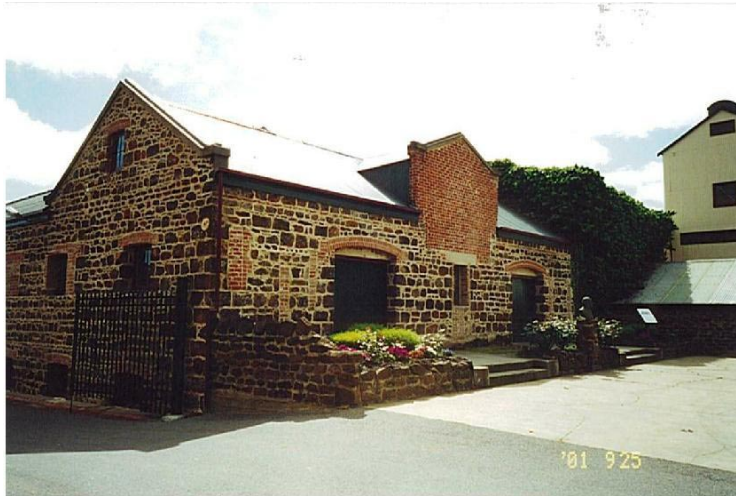
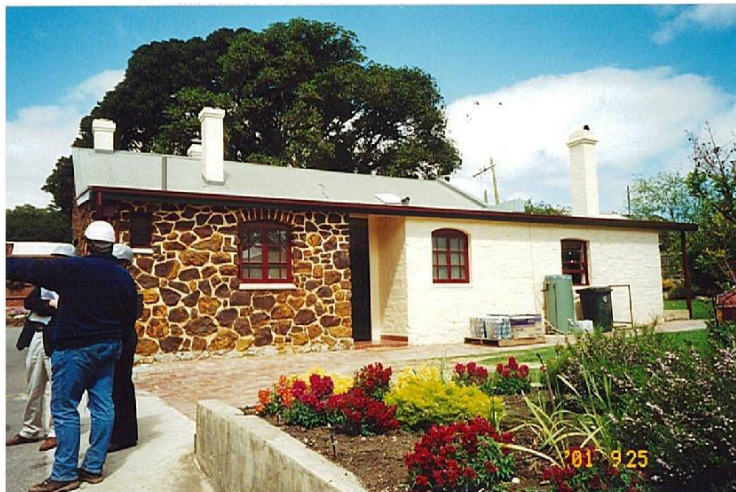


写真73 ペンキを剥ぎ、本来の壁にもどす作業が半分済んだところ。



事例3：ロマンティックな廃墟—ポート・アーサー(TAS州)

(1)ユニークな歴史的地区

ポート・アーサーは、タスマニア島のタスマン市、ホバート市から車で3時間ほどの地にある。三方を海に囲まれ隔絶された土地に、豪州大陸の囚人のさらなる流刑地として建設され、刑務所、工場、農場を備えた1つの町へと発展した。刑務所が廃止されたのは早く、すでに19世紀には廃墟となっており、当時の観光地となっていた。天井や壁が崩れ落ちたまま修復をせず(整備は行っている)、青い芝生とレンガの「手入れの行き届いた廃墟」との対比は美しく、旅情を誘う。安易な修復は時には安っぽく見えがちであるが、ポート・アーサーは廃墟であるが故に迫力がある。廃墟であることを売り物にした点がユニークである。2000年タスマニア州ツーリズム賞を受賞した。なお道中も国立公園を通るため、いくつか景勝地が設定されており、ホバート市から日帰りまたは短期の旅行先として人気がある。

(2)組織と運営

1970年よりタスマニア州政府国立公園及び野生生物局の管理下であったが、現在は同州開発省の外郭団体であるポート・アーサー運営協会(Port Arthur Historic Site Management Authority)が運営している。当団体は、歴史的地区の保存とツーリズムの振興を図ることを目的とする。当協会は、州政府からの助成金と入場料や土産物販売等の収益によっている。2001年の収入は、事業収入(入場料、土産等販売等)が約620万ドル、非事業収入(州政府助成金、連邦政府補助金等)が約100万ドルである。

(3)事業内容

ビジターセンターの運営

周辺地域の観光スポットの情報提供だけでなく、カフェや休憩スペース、土産物ショップを併設する。協会が設立したポート・アーサー地域マーケティング会社(Port Arthur Regional Marketing Ltd)が運営しており、協会だけでなく、タスマン市やツーリズム関係団体からの出資金でまかなわれている。

教育・啓発事業

園内の資料館の展示には工夫を凝らし、受付で手渡されたトランプと同じマークのついた囚人を展示から探すなど、観客にとって身近に感じられるよう工夫している。イベントも多く企画し、囚人料理教室や19世紀の衣装体験、舞台や音楽会を開催している。

各種ガイドツアー

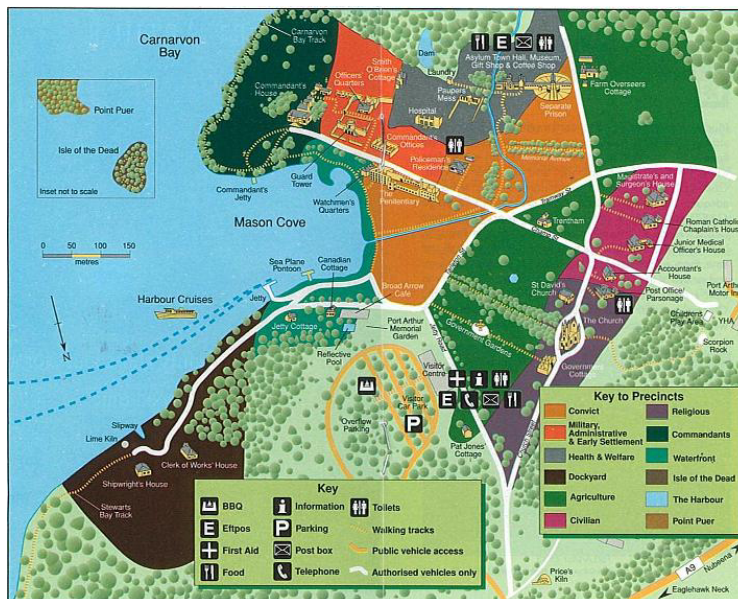
園内をまわるウォーキングツアーや、クルーズが日に何度も催行されている。

また夜間にわずかな明かりをもとに、刑務所内を歩くゴーストツアーは人気がある。

写真74 ロマンティックな廃墟、ポート・アーサー(タスマン市)



図10 ポート・アーサー園内図



引用文献

(著者・書名・発行元・発行年)

全般

Elizabeth Vines "Street wise – A practical Guide" the National Trust (NSW) 1996

Graeme Davidson and Chris McConville "A Heritage Handbook" Allen & Unwin 1991

Graham Jahn "A guide to Sydney Architecture" The Wartermark Press 1997

都市計画制度

UTS Centre for Local Government " Effective Environmental Planning and Management" 2001

UTS Centre for Local Government "Development Control Short Course" 2001

Brendan Gleeson and Nicholas Low "Australian urban planning" Allen & Unwin 2000

連邦政府

the Australian Heritage Commission "Successful tourism at heritage places --- A guide for tourism operators, heritage managers and communities" 2001

N S W州政府

NSW Heritage Office "Heritage NSW vol.6 No.3"1999

NSW Heritage Office "Heritage NSW vol.7 No.1-4"2000

NSW Heritage Office "Heritage NSW vol.8 No.1"2001

NSW Heritage Office "Heritage Projects Funded in 1999/2000" 2000

NSW Heritage Office Heritage Information Series

"A Guide to the Heritage System" 1999

"An introduction to the Heritage Amendment Act, 1998"

"Assessing Heritage Significance"

"Community-based Heritage Studies"

"Guidelines for Heritage Trail"

"History of Heritage Listing"

"How to establish a Heritage Advisory Service"

"How to establish a local heritage fund"

"Suggestions on how local council can promote

heritage conservation"

N S W州議会

Parliament of New South Wales "History Bulletin 1-9" 2000

シドニー市

The National Trust of Australia(NSW) "The Great Conservation Debate – A Heritage Week Event" 1992

City of Sydney "Central Sydney Heritage Local Environmental Plan"

City of Sydney "Central Sydney Development Control Plan 1996" 2001.1

City of Sydney "Corporate Plan"

ロックス

Sydney Harbour Foreshore Authority "Experience The Rocks" 2000-2001

Sydney Harbour Foreshore Authority "Corporate News, The newsletter of SHFA" No5,2000 No9,12,2001

Sydney Harbour Foreshore Authority "The Rocks Gazette" No8, 2000

Sydney Harbour Foreshore Authority "The SHFA Gazette" November 2000, February, March, June 2001

Sydney Harbour Foreshore Authority "Annual report 1999/2000" 2000

アデレード市

Adelaide City Council "1999/2000 Annual report" 2000

Adelaide City Council "Adelaide City Development Plan" 2001.3

Adelaide City Council "Guidelines to the Heritage Incentives Scheme" 2000.9

Adelaide City Council "Expression of Interest for the provision of Architectural Heritage Services"

Adelaide City Council "Our City, Your Heritage"

Kathryn Gargett & Susan Marsden "Adelaide – a brief history" History Trust of South Australia 1996

S A州

Heritage SA "The Old Queen's Theatre"

【執筆者】

(財)自治体国際化協会シドニー事務所 宮澤織江 所長補佐